

平成 19 年 12 月 4 日 近畿地方整備局

淀川水系河川整備計画(案)の策定に向けた

住民の皆様、自治体の長から意見をお聴きする取り組みについて(中間報告 071204 版)

淀川水系における治水、利水、環境等に関する河川管理の長期的な方針を総合的に定める「淀川水系河川整備基本方針」が今年8月16日に策定されました。これを受けて、当面の河川整備の具体的な内容をお示しする河川整備計画を速やかに策定すべく、河川整備計画の原案を作成し、8月28日に公表しました。

河川整備計画原案は、関係住民、学識経験者、関係自治体の長に対し、河川整備の内容について河川管理者の考えを丁寧に説明し、幅広いご意見をお聴きするために作成した、いわゆるたたき台の案です。現在、この原案をもとに、いただいた幅広いご意見を踏まえ、河川整備計画(案)の作成に向けて取り組んでいます。

まず、できるだけ多くの住民の皆様から幅広くご意見をいただけるよう、河川整備計画原案をご覧いただける工夫や、ご意見をお聴きするための機会の設定などに徹底して取り組んでいるところです(別添資料-1)。

また、自治体の長の方々については、河川整備計画原案の内容について、流域内の府県知事や市町村長、また各自治体の担当職員の方々に対して、近畿地方整備局や各河川事務所からご説明し、ご意見をいただいておりますが、今後も繰り返しご意見を伺っていきます。また、いただいたご意見につきましては、随時ホームページで公表しています(別添資料-2)。

さらに、流域内の市町村長の方々にお集まりいただき、これから淀川水系河川整備計画の案を河川管理者が作成していくにあたってご議論いただく琵琶湖・淀川流域市町村長懇談会を開催しています(別添資料-3)。

◇住民の皆様の意見をお聴きする取組み

・淀川水系河川整備計画原案の周知

淀川水系河川整備計画原案を一人でも多くの方にご覧いただき、ご意見をいただけるよう、自治体広報へのお知らせ掲載、流域内の各駅へのポスター掲示、流域内で行われるさまざまなイベント等を活用した広報活動を行っています。

・ご意見募集チラシの配布

上記に加えて、淀川水系河川整備計画原案に対するご意見募集チラシ（意見送付用の葉書つき）の新聞各紙への折込み、流域内のさまざまな公共施設等への設置など、河川整備計画原案の内容を多くの方に知っていただくとともに、気軽にご意見をいただけるようにしています。

・「住民意見交換会」の開催

流域内の各地において、11月中旬までに計37箇所住民の方々から直接河川整備計画原案へのご意見を述べていただく会を開催しました。開催の結果の概要についてはホームページで公開しています。

・「淀川水系河川整備計画ホームページ」の開設

淀川水系河川整備計画原案へのご意見をインターネットからもいただけるよう、ホームページを開設しました。ホームページでは、淀川水系河川整備計画に関わる各種情報をご覧いただけるようにするのはもちろん、住民、自治体の長、学識者からいただいたご意見を随時掲載しています。

また、ご意見については携帯電話からもお送りいただけます。

淀川水系河川整備計画ホームページ

URL: <http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/seibi/index.html>

<http://mobile.yodoriver-net.jp/seibi/i/index.html>（携帯電話用）

表－1

平成19年11月16日時点で頂いている、ご意見の総数と河川毎の分類は表－1のとおりです。

また、この内、住民意見交換会で頂いたご意見について主な内容を取りまとめたものを次ページ以降に記載しています。

事務所名	意見総数	意見交換会 意見数
淀川	1,590	923
琵琶湖	103	71
大戸川	122	88
木津上	101	83
猪名川(猪名川総合開発を含む)	28	27
全体	1,944	1,192

いただいたご意見を、【1. 人と川とのつながり、2. 河川環境、3. 治水・防災、4. 利水、5. 利用、6. 維持管理、7. 関連施策、8. その他】の7項目に分類し、河川毎に主要な意見を記載すると共に同種の意見数を整理しています。なお、ご意見本文についてはホームページで公開していません。

淀川水系河川整備計画についての住民説明会・意見交換会 開催実績一覧

○開催済

開催日	事務所	説明会名	開催箇所	参加者数
平成19年9月21日	大戸川ダム	地元住民説明会	大鳥居地域開発協議会	4名
平成19年9月23日	大戸川ダム	地元住民説明会	牧町地域開発対策委員会	24名
平成19年9月28日	大戸川ダム	地元住民説明会	大戸川ダム対策協議会小委員会	16名
平成19年10月2日	大戸川ダム	地元住民説明会	上田上学区・田上学区自治連合会	36名
平成19年10月5日	大戸川ダム	地元住民説明会	黄瀬大戸川ダム対策協議会	11名
平成19年10月7日	淀川河川	淀川を考える会	天満研修センター	20名
平成19年10月7日	淀川河川	淀川を考える会	京田辺市商工会館	35名
平成19年10月13日	木津川上流	木津川上流意見交換会	名張市会場	93名
平成19年10月14日	淀川河川	淀川を考える会	京大会館	17名
平成19年10月14日	淀川河川	淀川を考える会	相楽会館	15名
平成19年10月16日	琵琶湖河川	淀川水系河川整備計画についての意見交換会	滋賀県 湖東圏域	13名
平成19年10月17日	琵琶湖河川	淀川水系河川整備計画についての意見交換会	滋賀県 湖西圏域	24名
平成19年10月17日	猪名川・猪名総	猪名川・藻川の川づくりについてご意見をお聴きする会	尼崎市立小田公民館	23名
平成19年10月21日	淀川河川	淀川を考える会	カラスマブラザ21	8名
平成19年10月21日	淀川河川	淀川を考える会	大阪商工会議所	20名
平成19年10月21日	淀川河川	淀川を考える会	枚方市市民会館	26名
平成19年10月21日	木津川上流	木津川上流意見交換会	伊賀市会場	82名
平成19年10月23日	琵琶湖河川	淀川水系河川整備計画についての意見交換会	滋賀県 湖北圏域	120名
平成19年10月24日	琵琶湖河川	淀川水系河川整備計画についての意見交換会	滋賀県 湖南圏域	25名
平成19年10月24日	猪名川・猪名総	猪名川・藻川の川づくりについてご意見をお聴きする会	伊丹市立文化会館	21名
平成19年10月25日	淀川河川	淀川を考える会	宇治商工会議所	39名
平成19年10月25日	琵琶湖河川	淀川水系河川整備計画についての意見交換会	滋賀県 大津圏域	55名
平成19年10月27日	淀川河川	淀川を考える会	久御山町役場コンベンションホール	30名
平成19年10月27日	淀川河川	淀川を考える会	高槻現代劇場	54名
平成19年10月27日	猪名川・猪名総	猪名川・藻川の川づくりについてご意見をお聴きする会	川西市文化会館	20名
平成19年10月28日	猪名川・猪名総	猪名川・藻川の川づくりについてご意見をお聴きする会	豊能町立中央公民館	3名
平成19年10月30日	大戸川ダム	住民意見交換会	上田上市民センター	41名
平成19年11月3日	淀川河川	淀川を考える会	長岡京市立図書館	42名
平成19年11月4日	淀川河川	塔の島地区河川整備に関する説明及び意見交換会	宇治公民館	47名
平成19年11月8日	淀川河川	淀生津地区住民説明会	淀生津地区公会堂	54名
平成19年11月8日	琵琶湖河川	河川整備計画原案丹生ダム建設事業についての意見交換会	滋賀県 余呉会場	75名
平成19年11月8日	猪名川・猪名総	猪名川・藻川の川づくりについてご意見をお聴きする会	池田市民文化会館	32名
平成19年11月14日	琵琶湖河川	河川整備計画原案丹生ダム建設事業についての意見交換会	滋賀県 高月会場	65名
平成19年11月14日	大戸川ダム	住民意見交換会	コラボしが21	37名
平成19年11月16日	木津川上流	木津川上流第2回意見交換会	名張市会場	87名
平成19年11月17日	木津川上流	木津川上流第2回意見交換会	伊賀市会場	61名
平成19年11月19日	琵琶湖河川	河川整備計画原案丹生ダム建設事業についての意見交換会	滋賀県 長浜会場	120名

※1 意見集約中のため、意見一覧表には未反映

淀川 意見交換会意見集約結果

大分類	細分類	意見数
1 人と川との繋がり	1 人と川との繋がりを高めるためのイベントを行えばよい	2
	2 川をもっとしてもらふこと、好きになってもらうことが大切である	8
	3 休日の利用が多い。平日の利用を考えると？	1
	4 教育の場として川を活用することが大切である	1
	5 河川レンジャーを有効に活用すべきである	5
	6 子供たちが河川にくる仕組み作りが必要である	4
	7 河川管理者と住民との意見の交流が大切、住民の意見を知ることが必要	9
	8 住民や地元への説明が不十分である	2
	9 住民に対する情報発信について様々な努力をしてもらいたい	8
	10 川の博物館の設置が必要である	1
	11 国と自治体、河川管理者と他機関との協力が必要である	2
	12 上流と下流との交流、本川と支川との調整が必要である	8
	13 住民の意見を聴いて十分な論議を尽くすことが必要	2
	14 学識経験者の意見の聴き方に問題がある	2
	15 行政間の垣根を超えて縦割り横割り行政の弊害を無くし連携を図る必要がある	12
	16 その他	3
	小計	70
2 河川環境	1 景観の悪化により河川環境が悪くなる	12
	2 植物に配慮した河川整備が必要である	15
	3 環境に対する体制。予算の充実を望む	5
	4 生態系の急速な悪化が心配な事態と思われる	1
	5 樹木伐採をしない河川整備はできないのか	2
	6 外来種対策が必要である	9
	7 ワンドの整備を望む	15
	8 生物に対して水辺や干潟の整備が大切である	1
	9 水質、汚水に対する対策が必要である	19
	10 イタセンパラ等貴重種や固有種に配慮した整備が必要である	7
	11 巨椋池の復活	2
	12 コンクリートによる整備が環境を悪くしている	2
	13 砂州、瀬淵など河床の管理が大切である	10
	14 河川環境を悪化させる工作物の対策が必要である	11
	15 生物に配慮した河川整備を望む	4
	16 整備が遅れている上流部は環境より治水に重点を置くべき	1
	17 ダムの建設では、水が滞留することによる水質対策、土砂の排砂の問題、流木等の有効活用、そういうことをトータル的にやればよいと思う。	1
	18 水循環など流域全体での取り組みが大切である	9
	19 歴史的景観、歴史的遺産に配慮した整備が必要である	3
	20 計画に景観・デザインの視点が必要である	2
	21 その他	24
小計	155	
3 治水・防災	1 はん濫被害の危険性は低く、水害に対する危機意識はない。	4
	2 水害に対する不安がある。	5
	3 防災意識を高めることが重要である。	14
	4 防災意識の向上、ソフト対策への理解が必要である	8
	5 ソフト対策も重要	1
	6 防災について、木津川の堤防が危険。最近の異常気象、洪水になれば町全体が沈むというなら、町民が一時的に避難できる施設を作るべきではないか。	1
	7 堤防が切れることを前提にした考え方もある。	1
	8 河川情報提供の推進して欲しい。情報提供手法に関する提案。	13
	9 ハザードマップの公表による危機管理意識の向上が重要である。	3
	10 浸水区域公表においてはさらに詳しい情報提供をお願いしたい。	2
	11 水と土砂が沿川市町の土地生活環境の形成は、長年月の洪水(水と土砂)の氾濫が大きく関係しているので、変遷の分かりやすい図を入れる。	1
	12 河川整備において治水事業は最優先課題である。	3
	13 環境整備とバランスをとりながら治水事業を進めてほしい。	4
	14 現状の河川における個々の問題点の解消を希望する。	37
	15 天ヶ瀬ダム1500m ³ /s放流の見直しを希望する。	13
	16 上下流バランスを考慮した治水計画の再検討を希望する。	8
	17 その他の治水事業・計画の見直しを希望する。	4
	18 河道整備、護岸、築堤、河畔林伐採を進めて欲しい。	12
	19 河川環境の保全も重要だが、治水をなおざりにしてはいけない	10
	20 木津川の堤外民地の買収を進め河川整備の促進を望む	1

淀川 意見交換会意見集約結果

大分類	細分類	意見数
	21 木津川の無堤地区の整備を望む	1
	22 旧木津町の内水対策を望む	1
	23 宇治川改修は納得出来る形で進めて欲しい	1
	24 宇治川の塔の島改修や天ヶ瀬ダム再開発は慎重に実施してもらいたい	3
	25 旧巨椋池は今や人口資産が集中し被害ポテンシャルが高くなっている	1
	26 必要なダムは建設を推進すべき	1
	専門的、科学的な見地から必要な対策を推進すべきで、いろいろな意見を聴く必要はない	1
	27 要はない	1
	28 整備事業の短期促進。(桂川)	1
	29 堤防補強を推進すべき	4
	30 枚方地区の河道掘削を進め安全度の向上を図るべき	1
	31 スーパー堤防はまちづくりと一体となった整備が必要で事業期間が長期に及ぶ	3
	32 スーパー堤防は必要ない。	4
	33 スーパー堤防の整備を進めて欲しい。	7
	34 流域の貯留・保水機能を有効に活用できるような土地利用を考えるべき	6
	35 遊水地のような景観にも良いダムが必要	1
	36 下流だけでなく上流の治水治山対策が重要	5
	37 堤内側に適地があれば、河林を設置してほしい。	1
	38 川というものが人の目にふれないといけないので、堤防を高くするのではなく目にふれるような整備がいいのではないかと。三川の整備手順で暫定時の治水安全度が変化するので、治水安全度に配慮した整備手順を考えて欲しい。	1
	39 狭窄部上流の治水対策は下流への影響を考えて慎重に行うべき	3
	40 保津峡計画の実行を願う	3
	41 治水対策については社会資本の蓄積度合により設定すること。	1
	42 治水において、地面を流すだけでなく地下を流すトンネル排水を検討してほしい	1
	43 河道整備、築堤、河畔林伐採は必要ない。	2
	44 淀川の下流部は1/300位で整備するべき	1
	45 ダムは必要ない。	3
	46 地域に対して治水事業の説明を明確に行って欲しい。	29
	47 関係機関の連携	3
	48 その他	23
	小計	258
4 利水	1 節水及び節水の工夫が大切である	4
	2 生活排水の水質が心配である	7
	3 節水型の社会よりも、今後の社会構造の変化に対応することが大切である	2
	4 利水量・取水量を検討し、確保してほしい	9
	5 年間雨量が減っているので新たなビジョンの提案が必要である	2
	6 関係機関の連携	1
	7 その他	9
	小計	34
5 利用	1 グラウンドとして河川敷は必要である	46
	2 グラウンドとしての河川敷利用を望む	5
	3 河川敷のグラウンド等利用は不要或いは制限すべきである	1
	4 グラウンド等利用するための高水敷は不要である	4
	5 運動場等の縮小を急激に進めていくのはどうだろうか	3
	6 安全に利用できるようにしてほしい	14
	7 遊び場としての利用がしたい	8
	8 人が安全に川に近づくことができる整備が必要である	5
	9 人が水辺に親しめる、近づくことのできる整備が必要である	12
	10 子供たちが水に触れるためにも整備及び環境づくりが必要である	4
	11 河川の公園化、緑化を望む	3
	12 マナー(ゴミ、水上バイクなど)を良くする必要がある	5
	13 野犬が多い	2
	14 車が入れないようにしてほしい	1
	15 河川敷までの道路及び駐車場を整備してほしい	8
	16 トイレや水道を整備してほしい	3
	17 舟運利用を望む	14
	18 舟運を復活させることがよい	2
	19 河川敷利用と河川環境の両立を望む	3
	20 魚釣り場を整備してほしい	1
	21 魚釣りや魚の観察ができる整備が必要である	3

淀川 意見交換会意見集約結果

大分類	細分類	意見数
	22 桜などの樹木を植栽して欲しい	1
	23 ホームレス対策が必要	9
	24 ウォーキング、散歩、サイクリング等ができる整備を望む	5
	25 サイクリングコースや散歩コースとしての整備を望む	1
	26 グラウンドの施設管理について	7
	27 地域づくりとの連携	1
	28 その他	42
	小計	213
6 維持管理	1 ゴミ対策が必要である	23
	2 ゴミが多い。清掃はシルバー人材を活用すればよい	1
	3 草刈りや清掃が大切である	2
	4 河川敷内の樹木管理をしてほしい	20
	5 河川敷内の耕作及び小屋を是正してほしい	4
	6 維持管理には、周辺住民との対話が必要である	6
	7 河川クリーンアップのためにボランティアを企画してほしい	2
	8 河川の管理体制をはっきりしてほしい	5
	9 野犬の管理をしてほしい	1
	10 堤防環境の整備をしてほしい	2
	11 洪水時に河川施設が機能するような維持管理をしてほしい	7
	12 河川の自然を大切にしたい事業をしてほしい	4
	13 その他	7
	小計	84
7 関連施設	1 歩行者が安全な橋づくり	2
	2 その他	3
	小計	5
8 その他	1 効率的な事業執行を望む	4
	2 長期的な視点にたった計画が必要	2
	3 さまざまな観点から河川整備を進めるべき	1
	4 流域委員会の内容なども公表しないと参加者に国の考えがわからない。説明が必	1
	5 学識者・委員会意見の尊重。	1
	6 河川整備について、学識経験等の意見を聞いているのか疑問である。	1
	7 わかりやすく丁寧に説明してもらいたい。	27
	8 水辺のかく乱について、堤内地排水等に配慮。	1
	9 地区、地域単位で広く意見聴取を行う必要がある	6
	10 予備知識が無い中で意見が出し難い	11
	11 計画策定プロセスを目に見えるようにすることが重要	4
	12 これまでの歴史的な背景や地元の意見を聴いて地域に根ざした整備計画とする必要がある	5
	13 川の中でだけでなく広域的な視点で考える必要がある	8
	14 計画原案全体はよく考えられている。しかし、対策はポツンポツンと散布しており、周辺人口、利用率、工事・施設量と利用の効率等を考え、必要区間は連続的に対策を実施すべき。	1
	15 原案については長いスパンで考えるべき。	1
	16 意見聴取にあたっての提案	5
	17 ここまで工事をして安全になったから、無理に進めていけない発想を。	1
	18 整備計画は急ぐのか？重点的に。	1
	19 原案の内容を具体的に書く。	1
	20 ルールと監理は必要で、国と民間で協力してやればいかな。	1
	21 計画における上流域の位置づけが下流に比べて弱い。	1
	22 日本の水はおいしい。	1
	23 統計データを踏まえて、将来(少雨化、温暖化...)を検討していくべき。(過去と気象が変わってきている)	1
	24 緑地に関する法令はすでにある。活用すればよいが周知がない(行政も知らない)ので住民は知るべき。	1
	25 市民緑地制度を使えば、お金を使って公園を整備する必要はない。上手に回転すればよい。	1
	26 天ヶ瀬ダムから発生する低周波音の問題は、全く解決しておりません。	1
	27 その他の現状の問題点・要望	15
	小計	104
	合計	923

琵琶湖 意見交換会意見集約結果

大分類	番号	主要意見	意見数
1 人と川との繋がり	1	河川改修が進んでいない地域の住民は、常に川に関心を持ち、洪水に恐怖を感じており、「川とのつながりが薄らいでいる」わけではないことを認識	1
		小計	1
2 河川環境	1	河川環境の回復が、琵琶湖環境の回復につながるとの認識で、地域住民として琵琶湖環境改善に取り組むことが大事	1
	2	丹生ダムの建設にあたっては、高時川の瀬切れ対策において、穴あきダムは琵琶湖からの逆水で余計なエネルギーもかかるので、高時川の瀬切れ解消にも効果のある1億m3規模の水面のある貯水型ダムの建設を望む。	8
	3	高時川の瀬切れを解消するためにも、当初計画の1億5千万m3規模どおりの丹生ダムを建設して欲しい	2
	4	琵琶湖の水質改善の面からも、水面のある丹生ダムを建設して欲しい	1
	5	「琵琶湖からの放流量を補う琵琶湖への流入水量の確保」を丹生ダムで行うのであれば、穴あきダム案はないのではないかと	1
	6	高時川において、アユが斃死した際の悪臭を防ぐための瀬切れ対策を実施して欲しい。	1
	7	丹生ダムの建設において、濁水対策容量を琵琶湖で確保する方法は、瀬田川洗堰の操作を伴い、これまでも魚類の産卵に影響を与えており、穴あきダムの型式ではさらに影響を与えるおそれがあり、貯水型ダム型式の建設を望む	1
	8	ダムの放流水は高温で魚も棲めず、瀬切れを解消するのも自然に逆らう行為であり、丹生ダムは建設すべきではない	1
	9	琵琶湖湖底の低酸素化の問題について、国としての調査検討結果を示すべき	1
	10	自然環境は、人が関わることで保たれるものであり、丹生ダムを建設することで新たな環境をつくることも大事である	1
	11	沿川の生活や、河川環境における課題を解決するためにも、水面のある丹生ダムを建設して欲しい	1
	12	持続可能な環境保全として一貫性を貫いた河川行政をしていただきたい	1
	13	小さな河川も、コンクリートのU字溝になっており、水が流れていないので、多少でも水が流れる川にしてほしい	1
	14	アユの産卵期に高時川に水がない状態となっており国・県が対策すべき	1
	15	現在の戸川はすでに大きな堰堤により分断されており、動物の移動は困難である。また水質についても検討をする必要がある。	1
		小計	23
3 治水・防災	1	琵琶湖の浸水は長期間にわたるものであり、上下流バランスもわかるが、下流を優先するのではなく、せめて並行して改修してほしい。	1
	2	治水を考えるうえでは治山が一番大事	1
	3	河川整備計画原案の記載は、地域の部分の記載が少なく、下流の人に丹生ダムが必要であることが理解されるような記載が必要	1
	4	丹生ダムの建設にあたっては、技術的に確立されていない穴あきダムではなく、1億m3規模の水面のある貯水型ダムの建設を望む	1
	5	丹生ダムの建設にあたっては、これまでに移転した犠牲など投資したことがむだになるので早期のダムの建設を望む	4
	6	丹生ダムの建設にあたっては、地域の意見である水面のある貯水型ダムの建設を望む	2
	7	丹生ダムの建設にあたっては、自治体の長の意見を踏まえて、今後の計画を策定していただきたい。	1
	8	丹生ダム建設について、住民の意見が反映されていないのではないかと	1
	9	丹生ダムが完成するまでに、高時川での洪水被害、瀬切れ問題が危惧される、早期の丹生ダム建設を望む。	4
	10	丹生ダムの目的は、治水・利水・異常濁水対策だけでなく地域振興も重要な目的であり、水面のあるダムが必要	1
	11	丹生ダムの穴あきダム案は納得できない	1
	12	すぐに着工できる貯水型ダムで、早く丹生ダムを建設して欲しい	1
	13	滋賀県知事が反対しているのだから、丹生ダムの調査検討は、滋賀県が行うべきである	2
	14	丹生ダムは、滋賀県知事の意見のために進まない	1
	15	地方も膨大な借金があるのはわかるが、丹生ダムを早く建設して欲しい	1
	16	戸川では、昭和28年、昭和57年とおよそ30年に一度大きな災害が発生しており、一日も早くダムを建設してほしい	1
	17	安心して暮らすためには、戸川ダムは必要	1

琵琶湖 意見交換会意見集約結果

大分類	番号	主要意見	意見数
	18	大戸川は川ではなく山に近い状態である。ダムを建設したとしても、河川改修は必要である。	1
	19	地球温暖化など地球規模での環境変化など、ダムの建設についても考慮すべき	1
	20	環境問題や経済の動向も変わろうとしており、丹生ダムの必要性の是非を国・地域・地域住民も見直す必要がある	1
	21	国も地方も大きな借金があり負の遺産を残さないためにも、ダムの費用対効果を考えるべき	1
	22	高時川において、昨年の出水も恐ろしかったので、河川内の樹木の対策を早急に行って欲しい	1
	23	高時川において、昨年の台風でも被害があったが、今、洪水が来て被災したら誰も責任をとれないのではないのか	1
	24	ダム建設は地域のエゴでなく、日本全体のことを考慮して行っていくべき	1
		小計	32
4 利水	1	下流地域は、水は必要ないといっているのに、ダムで異常渇水対策をする必要性がわからない	1
	2	丹生ダムについて、現時点の水需要予測が見誤っている恐れもあり、当初計画1億5千万m3規模のダムを建設すべきである	1
	3	丹生ダムを建設できなくなったの、大阪が水の必要がなくなったためではないのか	1
		小計	3
5 利用	1	野洲川で計画されているグライダーの滑走路は、「川でなければできない利用、川に活かされた利用」という基本的な考え方に、該当しないため許可しないでほしい	1
	2	丹生ダムなど、上下流の連携において、上流が下流のために苦勞してきたことが記載されておらず残念である	1
		小計	2
6 維持管理	1	行政と住民が連携して瀬田川の清掃をしたことを評価している。	1
	2	ゴミ問題を解決するために、天ヶ瀬ダムに流れ着くゴミの分類を行い、出所を推定し、琵琶湖流域全体に発信すべきである。	1
		小計	2
7 関連施策		小計	0
8 その他	1	必要な事業は、費用対効果をしっかり行い、進めるべき	1
	2	意見交換会での回答を周知してほしい。	1
	3	流域委員会の委員の年齢制限をなくしてほしい	1
	4	丹生ダムについて、詳しく原案に記述すべきである	1
	5	高時川沿川で地下水が低下している原因が意見交換会の資料ではわからない	1
	6	流域委員会は、地域の実情を把握し、丹生ダム建設の必要性を理解してほしい	1
	7	意見交換会での説明資料の詳細内容が、河川整備計画原案に記載されていない	1
	8	事業にあたっては、国の支援を幅広く行ってほしい	1
		小計	8
		合計	71

大戸川 意見交換会意見集約結果

大分類	番号	主要意見	意見数
1 人と川との繋がり			
		小計	0
2 河川環境	1	自然環境はすでに今迄の工事で変ぼうしている。	1
	2	ダムが出来た後の河川水位はどうなるのか。大戸川下流部は、流量が減ってきており、また土砂が堆積している。	1
	3	環境保全を十分に考慮されたい。	1
		小計	3
3 治水・防災	1	ダム建設後においても、大戸川下流部では被害が残る。河川改修を行って欲しい。	5
	2	具体的に建設計画を提示すること。又河川整備も行う必要がある。	1
	3	ダムが出来ても下流大戸川では、氾濫が残る。どうにかならないのか。	6
	4	大戸川ダムは地元治水にとって重要であり、実施の方針を歓迎する。	19
	5	大津放水路2期についても取り上げていただいており、ありがたい。	1
	6	ダム事業の取り組みに影響が出てくるのが心配。	6
	7	洪水時の濁水(砂)について、ダム貯水池内で一旦堆積させれば良いのでは。	1
	8	建設有りではなく、効果を見てから、建設を決めるべきではないか。	3
	9	河川のカーブしている箇所を是正すれば破堤(被害)は回避できるのではないか。	1
		小計	43
4 利水	1	地域の利水にも配慮されたい。	1
	2	ダムを建設するのであれば、洪水調節だけでなく、農業用に使用できる水等を貯める。	1
		小計	2
5 利用			
		小計	0
6 維持管理	1	流木・流石等の対応が十分でないと感じる。ダム建設ありきで走るのはいかがか。	1
	2	流木・流石、堆砂などの対策が必要。	2
		小計	3
7 関連施策	1	ダムの下流の地域整備については、従来どおり進めて貰う必要がある。	8
	1	今の発電所(大戸川、大鳥居発電所)はどうなるのか。	1
		小計	9
8 その他	1	行政はしっかり計画を立てるべき。人命は大切、温暖化による降雨の問題、環境破壊もするだろう、考えることは沢山、住民の意見を良く聴いて、しっかり計画を立ててもらいたい。急ぐべきでない。	6
	2	下水道整備は甲賀市にとっても大きな負担であり、下流府からの負担がどうなるか心配している。下流府や県との調整事項ではあるが、実施できるよう地整としても尽力された	1
	3	整備計画は、住民の意見を反映して行かなくてはならないので、我々(委員会)の仕事としては地域住民にダムの必要性を説明していかなくてはならない。	12
	4	水のないダムで、公園整備等はどうなるのか。今以上に研究して頂かなければ困る。	1
	5	十数年前から検討と言っている。どう考えているのか。	3
	6	ダムを造るときの土砂(骨材)はどうするのか。そこで自然への被害が出る。	1
	7	原案への記載の仕方についてであるが、はっきり(どちらともとれる)していないようにと	1
	8	流域委員会の提言(H15)、ダム方針(H17)から原案(H19)への経過が知りたい。	3
		小計	28
	合計	88	

木津川上流 意見交換会意見集約結果

大分類	番号	主要意見	意見数
1 人と川との繋がり	1	三面張りの河川工事が川と人の暮らしを遠ざけた	1
	2	自然に人々が川の中に入って、川を利用したり楽しんだりできるようにするべき。	1
	3	連続する河川における縦割り行政の弊害をなくすべき。	1
	4	国、県、市、住民、農業従事者、森林従事者、漁業従事者等が、みんなで連携していく必要がある。	1
		小計	4
2 河川環境	1	ダム湖の水質保全対策の実施を望む。	1
	2	河道内樹木を伐採する場合には、有益な箇所もあるので地元住民の意見も尊重すること。	1
	3	水質保全対策を望む	2
	4	河川水質の悪化は、流域全体で取り組むべき課題。	1
	5	ダム下流への土砂供給実験の成果を評価したい。	1
	6	河川環境の改善が必要である。	1
	7	ダム建設予定地のオオサンショウウオの生態調査を十分に行ったのか。	2
	8	地元の学識者の意見も聞くべき。	1
	9	ダムの議論では環境問題を十分検討してもらいたい。	1
	10	ダム建設の影響は多岐にわたるため、慎重な検討が必要。	1
	11	ダムのフラッシュ放流は、魚類の産卵も考慮して実施すべき。	1
	小計	13	
3 治水・防災	1	過去の浸水被害の状況を示して、住民の不安をかき立てる手法は疑問だ。	1
	2	浸水被害が発生するような所になぜ人を住ませたのか。	1
	3	頻りに浸水被害を受ける所の住民は、騙されて住んでおり、国が対策費用を負担すべき。	1
	4	川上ダムは不要である。	2
	5	ダム建設は、流域委員会答申と矛盾する。	1
	6	川上ダムの高さを90mとした根拠を説明すべき。	1
	7	治山対策も重要である。	2
	8	超過洪水対策として、流域治水対策を考えるべき。	1
	9	名張川・宇陀川の河川改修(内水を含む)の実施を希望する。	5
	10	上野地区内水対策の実施を希望する。	2
	11	自然環境も大切だが治水対策はもっと大事である。	1
	12	整備計画代替案の実現性はほとんど無い。	2
	13	川上ダムの早期完成を望む。	20
	14	川上ダム周辺整備の早期完成を望む。	1
	15	上野遊水地と川上ダムの早期完成を望む。	1
	16	川上ダム建設可否の早期決着を望む。	1
	17	川上ダム建設が見直されると約束違反となる。	1
	18	川上ダムを建設しないのなら、移転する前の地元の姿に戻してもらいたい。	1
	19	河川整備原案に対し川上ダム建設地の住民は大賛成である。	1
	小計	46	
4 利水	1	伊賀水道水価を公表すべき。	1
		小計	1
5 利用	1	親水公園整備を望む	3
	2	堤防沿いを散策できるような河川整備を望む。	1
		小計	4
6 維持管理	1	河川敷内の雑草、雑木対策を望む。	4
	2	アセットマネジメントの内容が理解できない。	2
	3	ダムはいずれ土砂で一杯になり使い物にならなくなる。	1
		小計	7
7 関連施策			
		小計	0
8 その他		意見交換会の成果が住民には分からない。	1
	1	住民と行政とが一緒に考えていくことが必要。	1
	2	科学的な根拠に基づく話し合う機会を開催願いたい。	1
	3	テーマを分けて議論する場を設けるべき。	1
	4	名張市と伊賀市それぞれの会場で意見交換会を実施すべき。	1
	5	地元説明会を多数開催すべき。	1
	6	意見交換会はいつも同じような話ばかりで、議論に進展がない。	1
	7	遊水地内は地役権設定されているため土地利用に規制があり、不便である。	1
8	整備計画原案の記載ミスの訂正	1	
	小計	8	
		合計	83

猪名川 意見交換会意見集約結果

大分類	番号	主要意見	意見数
1 人と川との繋がり	1	発言したものが生かせる機会が欲しい	1
	2	川についての教育が大切ではないか	1
		小計	2
2 河川環境	1	川に入って遊べるような水質を望む	1
	2	支川も含め堰に魚道が欲しい	1
	3	水質改善を望む	1
	4	景観のよい川づくりを望む	1
	5	環境悪化による外来種等危険な生物が繁殖	1
	6	流域住民の意識を変えることによる水質改善	1
		自然のサイクルを崩さないような事業を望む	1
	小計	7	
3 治水・防災	1	ダム上流の保水力の確保を望む	1
	2	ソフト対策の充実を図って欲しい	1
	3	狭窄部開削の早期実施を望む	1
		小計	3
4 利水			0
	小計		
5 利用	1	河川敷のグラウンドは撤去して欲しい	2
	2	適正な公園整備を望む	1
	3	流域全体の親水性向上を望む	3
	4	川の中にせせらぎ水路が欲しい	1
	5	上下流を繋ぐ自転車道が欲しい	1
	6	木陰が欲しい	1
		小計	9
6 維持管理	1	地域と連携してゴミを減らして欲しい	5
		小計	5
7 関連施策	1	ダム事業を継続して欲しい 地域振興を実施して欲しい	1
		小計	1
8 その他			
		小計	0
		合計	27

市町村長からの個別意見

○木津川市長

- ・ 内水対策、無提部対策は、これまでも要望しており、水系全体の状況は分かるが、引き続き必要性の認識を願う。
- ・ 堤防補強について、急ぐ必要性は高い。
- ・ 新しい木津川市役所の新庁舎については洪水で5m湛水することを前提に計画しており、大事なものは2階以上に上げ、ポートも用意し、周辺住民の避難所としても活用できるように考えている。

○精華町長

- ・ 河川敷は公共空間であり、公共空間の利用のあり方については、河川管理者のスタンスとして、地域の利用を優先するよう、考えるべき。
- ・ 河川環境も当然大事であるが、それだけを意識して、誰も川に近づけなくなることは、決して良いこととは思えない。
- ・ 最近、町内の地域活動が活発化してきており、川の利用という点でも考えていきたい。

○和束町長

- ・ 川には、地域をつなぐ、という役割がある。山林を抱えている自治体は、水を保全するという意味で、下流に対して貢献しているが、そういう上流の役割の重要性を評価してほしい。
- ・ 和束川でも、背後地が水田になっている箇所では、護岸高を抑えて、氾濫しやすくしている箇所がある。人家を守るためには、必要な工夫である。

○長岡京市長

- ・ 桂川の下流部が狭く、上流が危険な状況であることは認識している。改修が必要なことは自明。
- ・ 支川小畑川でも、桂川の水位が上がれば、その影響で流れなくなり、上流での氾濫が心配である。
- ・ 市としては、いざという時のために、どのような情報をどのように出すか、ということが大事であり、ためらうことはしないようにしたいと考えているので、河川の状況が分かる映像の配信や必要な情報がリアルタイムで入手できるようなシステムを期待している。

○高月町長

- ・ 河川整備計画原案の概要、特に治水の考え方について、琵琶湖河川事務所から説明を受けました。
- ・ 姉川・高時川の治水対策の必要性、緊急性を国の河川整備計画原案の中に記載されたことをたいへん喜ばしく思っております。
- ・ いうまでもなく、丹生ダムは地域の治水安全度を高めるために必要不可欠な施設であり、

地元自治体としては早期に完成を望んでいるものでございます。このことに関しては周辺自治体及び住民におかれても、その思いは変わるものではないと考えております。

- ・ 高月町としましては、国並びに滋賀県に共同歩調を取っていただき、早期に姉川・高時川の治水安全度の向上に向けた取り組みを具体化して頂きたいと考えております。
- ・ 今後、住民に対する意見交換会を行うと聞いております。これからの国の取り組みについて住民の方々にも丁寧に伝えていただいた上で、地域の声を拾い上げていただくことをお願いいたします。

○宇治市長

- ・ これまで宇治市として、進めていただきたいとしていた、塔の島地区の河川整備や大戸川ダムなどは、原案に含まれており、評価している。
- ・ 洗堰全閉解除問題については、一定の前処理が終わった上で、となっているが、今後の慎重な検討をお願いする。
- ・ 宇治川については、下流域に比べ、治水安全度は小さいと認識。特に観月橋から宇治橋にかけては、高い堤防で守られており、不安感は強い。
- ・ 首長としては、住民の安全を第一に考えているため、河川環境よりも治水を優先する気持ちは強い。河川管理者においても、そういうスタンスを期待する。
- ・ 宇治市としても、瀬田川洗堰によって、守られている、という認識は持っており、塔の島地区の河川整備については、宇治市域の安全性を高めるとともに、琵琶湖沿岸の浸水対策に対しても一定の効果が発揮されるため、基本的に異論はないが、景観や昔の塔の島の姿を意識した整備を考えてもらいたい。

○久御山町長

久御山町は3つの川が合流するところであり、上流のどこかで堤防が切れると、氾濫水が集まってくることから、堤防補強については、急いで欲しい。

- ・ 中流域の改修と、下流域の改修を同時並行的に進めることが、やはり良いのでは、と思う。
- ・ 最近、幸いにも大きな出水がないので、危機意識が低下している。町長として先頭に立って危機意識を持ってもらうよう取り組んでいるが、危機管理体制については、河川管理者からも迅速な情報の提供が必要。

○守口市長

- ・ やはり治水は大事である。市民の安全を守る立場として、避難のための危機管理体制についても、引き続き、取り組んでいかなければならないと考えており、国としても、重要性を十分認識して欲しい。
- ・ 守口市下島地区で計画されているスーパー堤防については、市としても是非とも進めていっていただきたい。
- ・ 河川敷の利用については、いろいろな意見があると承知しているが、スポーツ利用の要望があることも、申し上げておく。

○寝屋川市長

- ・ 治水の必要性、重要性は論を待たない。環境も大事であるが、もし、堤防が決壊するようなことになれば、大変な事態である。
- ・ 下流域の各市は都市化が進み、人口密度も高く、多目的に利用出来る運動広場が必要である、又最近、寝屋川市でも、水をはじめ環境への関心が高まってきており、河川利用にあたっては、スポーツ一辺倒ではなく、水を大切にする心が育まれていくような使い方をしていきたいと考えている。指導者層に対する教育等も必要と思う。
- ・ 淀川から寝屋川に浄化用水が導入されているが、かなり限られたものとなっており、それほど多くの量が必要ではないが、水質面や親水面からも、常時、導入されるよう、考えていただきたい。

○八幡市長

- ・ 治水対策は重要。特に、木津川下流域では、流下能力も小さく、洪水の阻害要因としての樹木の繁茂が気になっている。成長が早いので、頻繁に伐採してもらいたい。
- ・ 三川合流地域は、北部広域交流拠点としてまちづくりを進めていきたいと考えている。対岸の長岡京市や大山崎町、宇治川を上った伏見、木津川の流れ橋等、川を軸としたネットワークをうまく形成することで、自然や歴史を満喫できるいくつかのルートを提供できる。そういうネットワークを意識した河川整備を計画に盛り込んでもらいたい。

○島本町長

- ・ 島本町は、上流からすべての水が集まってくる場所であり、過去にも被害を受けている。特に本川の水位が上昇すると、支川の水無瀬川の水が流下せずに氾濫することになり、そういった点からも、治水対策は、重要な視点と考えている。
- ・ 国として、上下流のバランスを考えて、治水対策を進めて欲しい。
- ・ 最近では、大きな災害が発生していないこともあり、いざという時に、住民の避難等がスムーズに行われるかどうか、課題。さまざまな面で支援もお願いしたい。

○城陽市長

- ・ 最近、木津川では大きな洪水が発生していないが、だからといって治水対策の手を抜いて良いわけではない。治水対策は国の最大の責務である。治水計画に基づく早期の整備を求める。
- ・ 環境も大事なことは分かっているが、そのために河川敷の利用を制限するという考え方には納得できない。河川の利用をもっと促進する方向で考えていくべきである。

○猪名川町長

- ・ 猪名川町では、下流に迷惑をかけないよう森林の保全、雨水浸透ます等流域対策をやってきたが、一向に治水事業がはじまらない。
- ・ 下流の疎通能力が確保されないと、上流の改修はできないと言われている。余野川ダムでなく、河道掘削で対応できるならそれでも良いから、銀橋狭窄部の改修を早く行い、猪名

川町が洪水に対して安全が確保されるよう、治水対策を行って欲しい。

- ・ 猪名川には井堰がたくさんあるが、昔は水を使わないときは、キリカキを開けて水を流していた。今は、管理が行き渡らず閉めっぱなしになっているため、魚が遡上・降下できなくなっている。魚道等により対策を行って欲しい。

○伊丹市長

- ・ 伊丹市は市域が狭く、堤内地にグラウンドの用地を確保することは困難である。一方、野球をはじめスポーツも盛んであり、自然環境の保全の必要性も十分理解しているが、グラウンド使用を排除しないようお願いしたい。
- ・ 総合治水の取り組みが担保されていないため、流域対策が進捗しない。例えば、堤内地の農地や緑地等、総合治水上の位置づけをした上で、治水上の補助を行う等が必要ではないか。

○能勢町長

- ・ 猪名川の水質は、下水道や合併浄化槽が推進され、昭和 40 年代後半に比べ大変良くなったと思っている。しかし、魚が昔のように戻ってきていないので、川のどこにでも魚がいるような状態に戻して欲しい。
- ・ 猪名川には昔、水浴場が沢山あってよく川で泳いだ。しかし、近年では河原が無く川に近寄ることもできない状態である。川は人々が身近な自然を楽しめ、川と街との一体感が体現できる空間を創出するべきである。

○池田市長

- ・ 池田市は河川内にグラウンドを使用させてもらっているが、今後も使用をお願いしたい。
- ・ 銀橋狭窄部の開削については、池田市としては洪水の増加やグラウンドの冠水について懸念しているが、国が上下流の安全を十分調整して事業を進めるのなら、それに従う。
- ・ 新聞などでは公共事業は不要で悪のような書かれ方をしているが、公共事業は必要なものと考えている。事務所からも、適宜指示いただければ、機会を捉えて必要性を訴えたい。

○川西市長

- ・ 川西市天王宮地区の改修を促進し、1日でも早く無堤地域を解消すると共に銀橋地区を開削し、多田地区に浸水被害が起こらないようお願いしたい。
- ・ 猪名川の利用面では、河川敷グラウンドを無くすのではなく、自然環境の保全に努めつつ、グラウンド利用もできる方法を考えて欲しい。

○尼崎市長

- ・ 堤防補強について早急に取り組みをお願いしたい。
- ・ 河川敷利用については、自然に戻せという意見と限られた空間の利用から今のまま必要という両面の意見があり、それぞれのメリット、デメリットを洗い出して、皆で情報を共有し、議論できるようにして欲しい。

第1回琵琶湖・淀川流域市町村長懇談会 結果概要

日 時：平成19年10月4日(木)15:00~17:00

会 場：カラスマプラザ21

出席者：亀井名張市長、今岡伊賀市長、山田守山市長、津村安土町長、南部湖北町長、北村高月町長、岩根木之本町長、二矢余呉町長、熊谷西浅井町長、久保田宇治市長、小田長岡京市長、石井京田辺市長、佐々木南丹市長、河井木津川市長、坂本久御山町長、堀和東町長、木村精華町長、手仲南山城村長、川島長浜市長(代理)、富士谷近江八幡市長(代理)、國松栗東市長(代理)、中嶋甲賀市長(代理)、山崎野洲市長(代理)、海東高島市長(代理)、馬場寝屋川市長(代理)、藤沢箕面市長(代理)

【治水対策について】

- ・ 今までの河川整備が治水一辺倒だったことは反省すべきだが、逆に、治水がいい加減になってはいけない。
- ・ 環境もちろん大事であるが、首長の立場から考えると治水が重要。
- ・ 堤防を高くせず、洪水時に下流に被害を及ぼさないようなまちづくりをしている。治水は一つの市町村でなく、一連の地域で考えることが重要である。
- ・ 河川整備の継続性を考慮しつつ、さらなる推進を図ってほしい。
- ・ 単なる浸水と堤防が決壊するのでは危険度が違う。
- ・ 河川内の立木が繁茂し、流水の阻害にならないか心配。
- ・ 堤防の点検結果から危険な箇所が明らかになっている。さらなる対策をお願いする。
- ・ 川幅が狭く危険度が高い。堆砂が進んでいるため河床掘削は重要。
- ・ 川の間際まで住宅が張り付き川幅を広げることができない。早くダム計画を固めて河川整備計画をつくってほしい。
- ・ 早くダム計画を決定して引き続いて事業を進めていくことが効果的な投資である。
- ・ ダムの整備を決定してから完成するまでに時間がかかりすぎる。
- ・ ダムの整備等で一定の効果は出ているが、平成16年の台風23号では大きな被害があった。
- ・ 内水対策を要望しているが、まだ施設ができていないところがある。
- ・ 住民の生命を守るためにハザードマップ等に積極的に取り組むことが必要。
- ・ 市民に対する情報提供が重要。リアルタイムの情報が把握できるシステムの検討をお願いする。
- ・ 琵琶湖の水位調整のためには、長期の気象予測の活用が可能となればよい。

- ・ 山の保水能力が落ちている。山を守らなければならないが、人がどんどん都会に出てしまうことが課題である。

【河川的环境・利用等について】

- ・ 河川整備計画原案には、河川に流入する水質についてあまり書かれていない。琵琶湖の水質が悪化しており、課題として記載すべき。
- ・ 水資源の涵養に関する記載をもう少し詳しく記載すべき。
- ・ 河川は公共空間として貴重な財産であり、利用できる仕組みを考えて欲しい。
- ・ 手を入れずにそのままにしておくことが必ずしも資源を守ることにはならない。河川も適切な管理が必要。
- ・ 急流で川に近づきにくくなっているため、よどみがあれば利用しやすくなる。
- ・ ダム事業を当面実施しない間、事業用地をどのように管理するのか。地域振興に懸念を抱いている。

【意見聴取の取組みについて】

- ・ 市町村長には住民の安全を守る責任がある。実際に災害が発生した場合、住民との窓口になるのは市町村である。
- ・ 責任のある人が如何にして責任をとるのかを踏まえて議論が行われるべきである。
- ・ このような市町村長が集まって議論する機会を頻繁に設けるべきである。
- ・ 地元の意見を十分に聴いていただくようお願いする。
- ・ 利害が対立する上下流がきっちりと議論し、お互いが理解しあえたことが計画に反映されるような仕組みづくりをお願いしたい。
- ・ 治水整備の促進を支援するような組織整備も必要。
- ・ 流域委員会の議論ばかりが報道されることで、固定観念になる傾向がある。新聞等の見出しの表現には十分な配慮を。

※この結果概要は、当日の議論をもとに速報版として事務局でまとめたものです。

第2回琵琶湖・淀川流域市町村長懇談会 結果概要

日時:平成19年11月6日(火)10:00~12:00

会場:コラボしが21

出席者:目片大津市長、獅山彦根市長、川島長浜市長、津村安土町長、山口竜王町長、南部湖北町長、北村高月町長、二矢余呉町長、橋本城陽市長、牟礼八幡市長、佐々木南丹市長、真鍋大山崎町長、前田宇陀市長、窪田山添村長、今岡伊賀市長(代理)、山田守山市長(代理)、國松栗東市長(代理)、中嶋甲賀市長(代理)、海東高島市長(代理)、中村東近江市長(代理)、山内虎姫町長(代理)、西口守口市長(代理)、大塩川西市長(代理)、

【治水対策について】

- ・ 治水は国の最大の責務であり、責任を持って早期に河川整備を進めることが第一である。水源地も含めた流域全体でも治水に取り組んでいくべきだ。
- ・ 本支川、上下流の治水のバランスは重要であり、上流・中流・下流の均衡のある整備を進めて欲しい。そのためには、上流部のダムは有効な方法であるため、早期の建設が必要。
- ・ 明治29年のような災害を想定する際には、上流と下流の利害調整について、こういう事態になったときにはこうなのだというものをはっきりさせておく必要がある。
- ・ ダムの代替案として遊水地は効果があるといわれているが、下流で効果を期待するのであれば、受益を受ける下流から援助できる制度を考えて欲しい。
- ・ 下流部の整備が済むまで、狭窄部の開削には着手しないのではなく、部分的な開削も計画に含めて欲しい。
- ・ 既設のダムでは、狭窄部の開削を前提にダム計画を受け入れた経緯があることを認識すべき。
- ・ 早期に堤防補強を進めることができる予算の確保が重要である。危険度の高い箇所での改修を進める予算措置をお願いしたい。
- ・ 内水対策についても明記してほしい。
- ・ 琵琶湖自体の洪水調節機能、渇水対策機能についても十分評価すべきである。琵琶

湖に流入する川に関する考え方を整理して欲しい。

【河川的环境・利用等について】

- ・ 河川空間は多面的な意味をもっており、都市の唯一のオープンスペースであるので自然空間とスポーツ利用の両面からその役割を考えてきちんとした計画をもって整備して欲しい。
- ・ 市民に河川を愛して欲しいというなら、親しみのある河川行政をお願いしたい。
- ・ 安心・安全等防災上の観点から上流までの舟運について考えて欲しい。
- ・ 渇水対策容量が琵琶湖周辺のダムはどこにもない。琵琶湖の能力だけを考慮しているが水位低下による南湖の環境への影響を考慮すると琵琶湖の上流で渇水対策容量を確保することが必要。
- ・ 異常気象に伴った断水の発生が危惧されるので、このための対策も視野に入れてほしい。

【その他】

- ・ 懇談会の意見をまとめて、意見書として国土交通省に提出したい。

※この結果概要は、当日の議論をもとに速報版として事務局でまとめたものです。